

水田川を守る会 クリーンキャンペーン実施

十二月十六日(日)、水田川のおえ橋からほほえみ橋の区間で、水田川を美しくしようという思いを持った

←認定書を持つ古川会長



美しい水田川に！

『水田川を守る会』の有志、約五十人が参加してクリーンキャンペーンが行われました。水田川を守る会は昨年七月に結成され、九月にはボランティアの方々の活動に対して、兵庫県がボランティア保険料や資材の支給、播磨町がごみの処分などを行う『いきいき県土づくりプログラム事業』に東播磨で初めて認定されています。参加者は、「水田川がきれいになればと思っただけで参加しています。こうした清掃活動を通じて、ご近所さんとも仲良くなれますしね」と白い息を吐きながら、笑顔で話してくれました。

「ふれあい音楽祭」で楽しいひととき

十二月二十二日(土)、子育て学習センター主催の「ふれあい音楽祭」が、中央公民館の大ホールで行われ、親



かわいい子どもたち

子ら約三百八十人が参加しました。兵庫教育大学のグロースサクソフオンアンサンブルと共に、みんなで歌ったり、手遊びをしたり。また、ステージの上では、さまざまな衣装に身を包んだ子どもたちが、お母さんと一緒にパフォーマンスを繰り広げました。参加者は、「楽しかった」「ボランティアの方がありがたかった」と満足げに話していました。

まちづくり委員会でため池を見て歩く

レポーター 藤本 真美さん

十一月の中旬、第六回目の委員会で町内にある十二カ所のため池を二班に分かれて、見て歩きました。川、海、池と、私たちの町、播磨町には自然の資源がいっぱいあります。それをどのように活用していけるでしょうか。今、実際にどのような状態であるのか、知っておくことは大切なことだと思います。自然として美しい景観を見せてくれているため池もありましたし、痛々しいほど汚れ、魚までたくさん死んで浮いている池もありました。また、小さなお地蔵さまが、祭られていたり、アヒルが泳いでいたり、はや渡り鳥が来ている池もあります。何にしろ傷つけるのも、また、生かしているのも人なのだと思います。みんなで大切にしていきたいものだと思います。



じっくり観察しました

地道な積み上げが「寶」になる！

レポーター 政本 和子さん



みんなの熱演です

二月二日(土)、第二十四回播磨同協(播磨町人権・同和教育研究協議会)研究大会で、昭和十四年ごろまで二子地区で行われていた「雨乞い」の行事と歴史を掘り起こし、きぼう学級中学生がプレゼンテーションにまとめたもの、ならびにきぼう学級小学生による人形劇「雨乞いの唄」が報告されます。昨年一月、お年寄りに「村の昔を聞く会」から始まり、一年をかけて一つの形に仕上がったものです。

中学生はグループごとにお宅を訪問し、貴重な聞き取り体験を行いました。小学生もプロの脚本家、人形操りの方に指導を受けながら、人形を作り、せりふのけいこ、披露に向け練習を重ねました。子どもたちと二子のPTA・子ども会の親たち、学校、そしてそれを支えてくれた地域。お互いの心が寄り合っ

町技能職者表彰に平野さん、岩竹さん

永年にわたり技能の向上に励まれ、地域社会の発展に貢献された人をたたえる「平成十三年度播磨町技能職者表彰」の表彰式が十一月二十九日(木)、町長室で行われました。今年の実受者は次の方々です。

平野弘さん(東本荘、製造業(縫製)) 現在まで地域の縫製職人として精進された功績は大きく、特にブラウスを主とした縫製技術は評価も高く、消費者の信頼を得ておられ、

県技能頭功賞に村瀬 好一さん

優れた技能で各種産業の発展や後継者の育成に尽くした人に贈られる「兵庫県技能頭功賞」の表彰式が行われ、村瀬好一さんが受表彰されました。村瀬好一さん(二子、機械器具組立工) 組み立て職として二十六年間、抜群の技能と技術をもって活躍

久保 摩記さん 障害者福祉大会で表彰

十二月八日(土)、龍野市総合文化会館で開催された「平成十三年度障害者福祉大会」において、久保摩記さん(東本荘)が知的障害者就労支援表彰を受けられました。久保さんは自らの障害を克服して就労し、社会の一員として持てる能力を最大限に発揮し、活躍しておられます。



久保 摩記さん

者福祉大会」において、久保摩記さん(東本荘)が知的障害者就労支援表彰を受けられました。久保さんは自らの障害を克服して就労し、社会の一員として持てる能力を最大限に発揮し、活躍しておられます。

「要約筆記ひまわり」

レポーター 楠元 直美さん

九月六日から十月二十五日の毎週木曜日に行われた「初級要約筆記者養成講座」の五期生として受講しました。播磨町の第一期は、平成九年九月二日〜十月二十二日に講座が開催され、終了後、「要約筆記ひまわり」を設立し、十六人のメンバーで活動が開始されました。

要約筆記で使用しているOHPは、昭和四十年代に学校教育用に登場し、それを利用して中途失聴、難聴者の会議で黒板より便利な道具として利用されるようになり、それを健聴者が代筆するようになって、要約筆記が始まりました。現在、五期生も含め会員二十一人が、毎週木曜日午後一時三十分から三時三十分までの例会で、勉強しています。



OHPを使って

地域の話題や行事をはじめ、「これは何?」と感じたことなど気軽にお知らせください。企画調整課 広報係 ☎0794(35)0356